

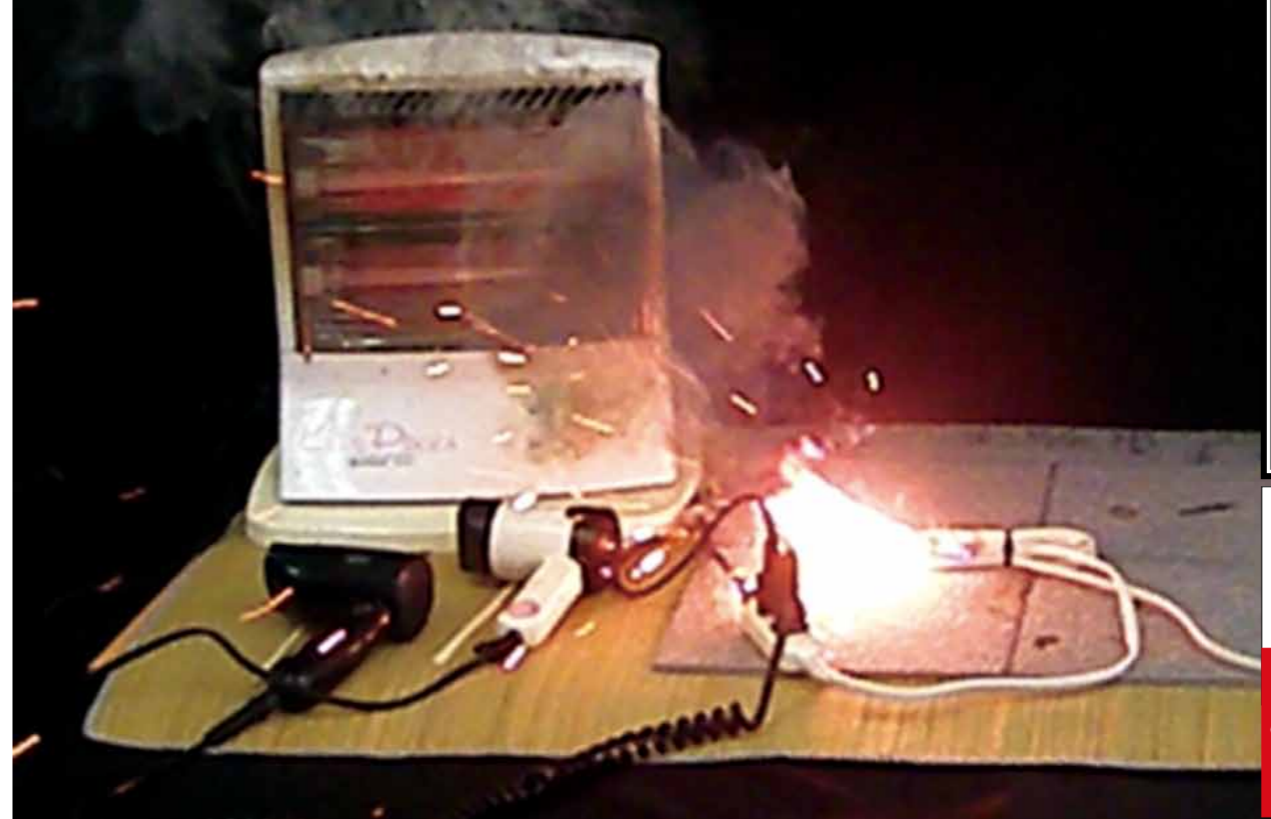
あなたの家は大丈夫？ 電源コードで火災・事故

消防の広場

119

火事・救急・救助

ついでに
住宅用火災警報器
月に一度は動作点検



突然ショートして発火

「電源コードの火災実験」

市消防本部では、実際に電源コードを束ねたり、タコ足配線をして定格容量を超える電気器具を使用した場合、どのような反応が現れるのか実験しました。

実験内容

いずれもスイッチの入った電気ストーブ(800W)、ドライヤー2台(計1700W)を、定格容量1500Wのテーブルタップで使用。(条件・気温11度、室温26度、テーブルタップは新品)

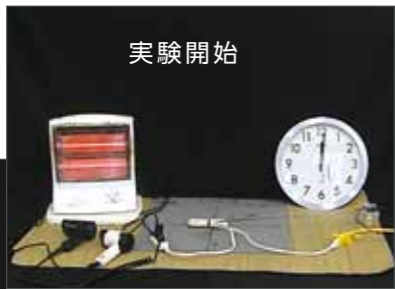
実験結果

時間経過とともに、束ねた電源コードの被覆が溶けていき、28分過ぎに突如灰色の煙が上がり始め、直後にショートが起こり発火しました。

動画をご覧いただけます

電源コードの火災実験

スマートフォンなどの端末を使って左のコードを読み取ると、動画が再生されます。※機種等により再生されない場合があります。



実験開始



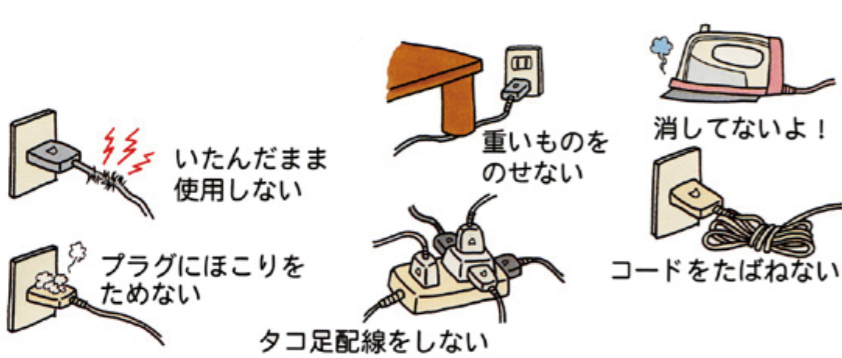
28分経過



その直後

焼け焦げた電気コード

事故防止のポイント

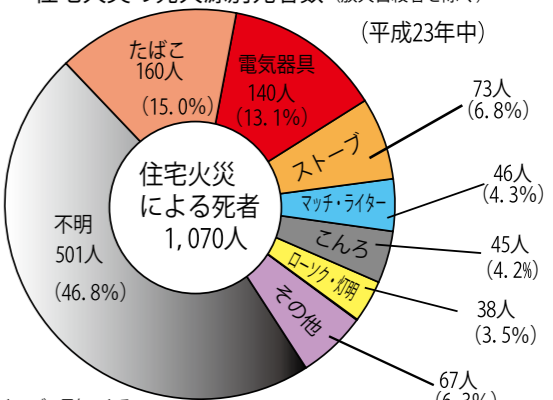


簡単な日頃の点検が

電源コード火災を防ぐ

電源コードからの火災は、日頃の簡単な点検で予防することができます。事故防止のポイント(左図)に注意して、電源コードやコンセント周辺の異常を早期に発見し、私たちの大切な命や財産を火災から守りましょう。

住宅火災の発火源別死者数(放火自殺者を除く)



注) 電気ストーブ、電気こんろ、電気こたつは電気器具に含む 平成24年消防白書より

電気器具火災は不注意や不適切管理が原因

電気は、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるエネルギーとして、さまざまな場面で利用されています。その反面、管理を怠ると火災の原因ともなります。

平成23年中の住宅火災の発火源別死者数(右グラフ参照)を見ると、「電気器具」によるものが13・1割あり、「たばこ」(15・0割)に次いで多く発生しています(「不明」を除く)。

電気器具からの火災の主な原因は、使用者の不注意や、誤った使い方によるもの、不適切な管理によるものなどがあげられます。

「コード束」「たこ足」はダメ!

皆さんは、家庭や会社などで電気器具を使用するとき、「コンパクトで見た目もすっきり」「コンセントが足りない」などの理由から電源コードを束ねたり、テーブルタップに複数の電気器具のプラグを差し込んで使用(たこ足配線)したりしていませんか?

消費電力の大きい暖房用電気器具や調理器具を同時に使用するなど、定格(左の写真参照)の容量を超える電力を使うと、電源コードやテーブルタップに大きい負荷が掛かり、火災が起きる危険性があります。

消費電力の目安

ハロゲンヒーター	1000w
電気こたつ	700w
電気ストーブ	1000w
ホットカーペット	1000w
ドライヤー	1200w
アイロン	1000w
電子レンジ	1200w
ホットプレート	1300w
電磁調理器	1200w

注) 製品により異なります。詳しくは、取扱説明書などでご確認ください。

定格ってなに?

電源コードやコンセントには、流すことのできる電気の容量が決まっています。これを「定格」といいます。



▲定格1500Wのテーブルタップ



電気座布団から出火

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したこと、また、冬季が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることから定められたものです。

法隆寺の火災も、壁画の模写をしていた作業員が使っていた電気座布団から出火した「電気火災」といわれています。

近年は、電気火災のほかにも、文化財に対する放火などが全国各地で相次いでいます。お近くにある寺社や古民家、骨董品などの文化財は、地域で代々守り継がれてきた大切な「宝」です。

文化財を火災から守るためには文化財の関係者だけでなく、文化財の周辺地域に住む方たちとも連携・協力して防火に努める必要があります。みんなで、地域の「宝」を守りましょう!

(消防本部広報委員会)